

学 年	教科等	単元名	日 時
第1学年	生活科	わん★わんチャレンジ大さくせん（第11時）	令和7年10月3日（金）

1 本時の目標

2回目のチャレンジに向けて、必要な情報を集めることができる。

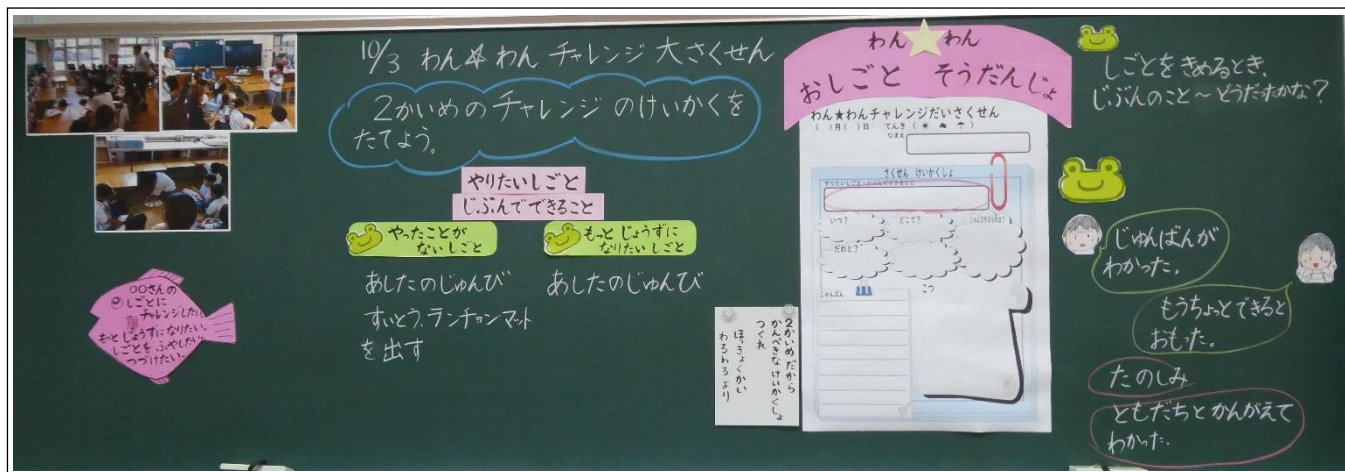
2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 本時学習について話し合う。 ○ 「チャレンジ報告会」の想起 ・ 仕事や報告の内容 ○ 本時のめあて 2回目のチャレンジの計画を立てよう。 2 学習への見通しをもつ。＊「ふ」は、ふりかえり た お仕事選び→ ふ ミニわん☆わん会議 け 計画書の記入 の お仕事相談所→ ふ 計画書の見直し こ まとめ→ ふ かえるタイム 3 2回目のチャレンジを決める。 ○ お仕事選び→ミニわん☆わん会議  Bさんがチャレンジした「お風呂掃除」は、道徳の「あきらくん」もしていたなあ。したことがないから、お母さんが喜んでくれそうだな。  「カーテンを開ける」にチャレンジしたいけれど、早起きが苦手だから、今はできないな。Cさんがチャレンジした「洗濯物畳み」に挑戦してみようかな。  4 計画書を作成する。（★） ○ 計画書の作成 ・ 時間帯、必要な物、手順、こつ お風呂掃除は、どうやってするのか分からない。Bさんに聞きたいな。  ○ お仕事相談所  Bさんは、お風呂掃除をしていたよね。どうやってするのか教えて。 Aさん まず、お風呂に水が入っていたら、栓を抜いてね。次に、スポンジを使って、周りをこするよ。少し水をつけると汚れが取れやすいと思うよ。  相談所員 Bさん  Cさんは、洗濯物畳みをしたのよね。どうやったら、きれいに畳めるのかな。 畳むものによって、畳み方が違うよ。タオルだったら、端と端を合わせるときれいに畳めるよ。  ○ 計画書の見直し Bさんのおかげで、仕事の順番が分かって嬉しいな。  Aさん 5 本時学習についてふりかえる。 ○ 新たな思いや願い 洗濯物をきれいに畳んで、おうちの人に喜んでもらおう。カーテン開けもしたいから、早起きができるようになることも聞いてみたいな。  Bさん	○ 前時の「チャレンジ報告会」時の写真等を提示し、「報告したり聞いたりして、どう思ったかな。」と尋ねることで、がんばったことを想起したり、新たな思いや願いをもったりすることができるようにする。 ○ 第2回のチャレンジに向けて計画書を作成することを伝えることで、第1回のチャレンジに向けて計画を立てたときのことを思い返し、活動に見通しをもつことができるようにする。 ○ 思考ツールを使って、仕事を決定させることで、仕事への思いや「自分の家庭に合っているか」「自分にできそうか」等、これまでの自分を見つめ直しながら選択することができるようにする。 ○ 仕事を選択した後、選んだ仕事と理由を伝え合う時間を設定することで、自分の選択を見つめ直すことができるようにする。 ○ 計画書を配付し、記入事項を確認しながら、全て記入するように伝える。そうすることで、自己を見つめ直し、分からないことがあることに気づき、必要な情報を集めたいと思ったり、前時の報告会を想起したりすることができるようにする。 ○ 学級を「お仕事相談所」と設定する。そうすることで、「お客さん」として、自分の家庭を想起しながら必要な情報を集めたり、「相談所員」として、自分の経験を思い返して、相手に必要な情報を提供したりすることができるようにする。 ○ 相談後に計画書を見直す時間を設定することで、本時の活動をふりかえり、自分のがんばりや友達と共に学ぶ楽しさに気付くことができるようにする。 ○ 「2回目のチャレンジが成功したら、どんな自分になりそうかな。」と問うことで、挑戦への思いを高め、できるようになった自分を楽しみにしながら取り組むことができるようにする。

3 本時の評価規準

これまでの自分や家庭生活をふりかえりながら、挑戦したいことを選び、新たな挑戦に向けて必要な情報を集めている。
(思考・判断・表現)【記述分析・行動観察】

4 板書



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 大峯 隆史 副主幹

- 授業始めに提示した写真(参観日の仕事紹介)により、すぐにこれまでの学習を想起させることができた。想起させるための、写真の提示や問いかけの仕方による効果が見られた。
- 教師が子どもの発言に対し、「何を?」「何が?」「どうして?」と問い、「～と思っていたのだね。」と子どもの言葉をつないだことで、子どもが無自覚だったり言語化できなかったりした思いや願いを自覚させることができていた。
- 展開の段階について、子どものやる気を引き出す教師の言葉かけがあり、効果的だった。例えば、「計画書を完璧に」という言葉かけにより、「今のままでは書くことができない」という発言を引き出すことができた。また、「スタート!」という言葉かけで、全員が立ち上がった。相談できる友達を探して、情報を得ようと動く姿から、「お仕事相談所」の気分を味わっていたことが伝わってきた。
- ふりかえりは無理なく行うことが大切である。ふりかえるための授業であってはいけない。
- 「小さいふりかえり」については、文章で記述させることは難しい。今回のように、印を付ける程度でよい。視点を与えず、出てくる言葉を価値付けたり、子どもが省察している姿を見たときに「今、していたよ。」と伝えたりするなど、自覚させる方法を考えるとよい。

6 考察

【研究内容1：幼児教育と小学校教育がつながるための手立ての在り方】

手立て① 幼児期の学びを意識した単元構成や指導計画の工夫

幼児期や実生活での仕事の経験についてアンケートをとり、実態を把握した。そうすることで、計画書をつくる際に、「分からなくて困る」と思う子どもや項目、それを解決するための情報をもっている子どもについて、教師は予想をすることができ、適切な助言を行うことができた。

手立て② 「遊び」の要素を取り入れた学習活動

本時、計画書を作成するために、分からないことを友達に相談して解決する活動を、「お仕事相談所」と想定して行ったことで、友達に聞いて解決しようとしたり、友達に教えて助けようとしたりする姿が見られた。また、「完璧な計画書を作成する」というミッションを課したことで、ゲーム的要素も加わり、意欲を高めることができた。

手立て③ 小さなふりかえりと大きなふりかえり

本単元では、「自分と家族」「これまでの自分とこれからの自分」「自分と友達」の3つを省察の対象とした。本時において、仕事を選択する際に、「自分と家族」「これまでの自分とこれからの自分」を省察する機会を設けた。また、計画書を作成する際に「自分と友達」を省察し、分からないことを尋ねたり教えたりする機会を設けた。省察しなければ計画書の作成はできないが、学習プリントに記録を残している子どもは多くはなかった。学習中にも学習プリントに記入できることを確認したり、本時の省察の姿を例示して伝えたりするなどの必要があったと考えられる。